

2022年度 Safe Kids Japan 活動概要



マークからリンク先に飛べます

資料の作成（2022/5/12）



「つかめない」「登れない」「落ちない」
ベランダの柵を
考えるプロジェクト

ベランダ等高所からの子どもの転落を予防する
—研究者、事業者、保護者と共に目指す安全な町、安全な建物—



ベランダからの子どもの転落は、
保護者の皆さんの意識や行動だけで予防することは困難です。

子どもがベランダ等の高所から転落し、重大な傷害を負うケースが相次いでいます。東京都の報告によると、2007年4月から2017年3月の間に、ベランダからの転落により救急搬送された、または受診した12歳以下の事例は145件で、そのうち入院を要する事例は全体の7割以上あり、死亡に至った事例も2件ありました。

今までベランダからの転落の予防策は、「見守り」や「目を離さないようにする」といった保護者の意識・行動に依存したものが主なものでしたが、その予防効果は低く、転落事故が多発しています。また、ベランダの構造や柵のデザインが多様化・複雑化していることなどから、この事業では環境改善による予防策を検討することになりました。

2020年度から取り組んできた「ベランダ等高所からの転落予防事業」の内容をまとめたリーフレット。



[ベランダの柵を考えるプロジェクト](#)

シンポジウムの開催 (2022/7/23)

公開シンポジウム
「事故による子どもの傷害を予防する—子ども中心の新たな予防システムの構築へ—」

司会：太田 由紀枝 (セーフキッズジャパン プロジェクトマネージャ)

14:00 開会挨拶

山中 龍宏 (日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長)

14:10-15:00 【第1部：傷害予防の現状と課題】

わが国の子どもの傷害の実態と課題

山中 龍宏 (日本学術会議特任連携会員、緑園こどもクリニック院長)

救急搬送におけるデータ収集の課題

阪本 浩司 (東京消防庁 防災安全課生活安全係長)

医療機関におけるデータ収集の課題

岸部 峻 (東京都立小児総合医療センター救命救急科医員)

学校管理下の事故のデータと課題

森本 晋也 (文部科学省 総合教育政策局 安全教育調査官)

子どもの事故予防への行政 (自治体) の取り組み

松田 初弘 (東京都生活文化スポーツ局 生活安全課 統括課長代理)

子どもの事故予防への行政 (国) の取り組み

消費者庁 (登壇者調整中)

15:00-16:00 【第2部：データを収集・活用するための学術】

現場で運用可能な傷害情報収集システムの構築

北村 光司 (国立研究開発法人産業技術総合研究所情報・人間工学領域主任研究員)

表データを利活用するための AI 技術

相澤 彰子 (日本学術会議第三部会員、国立情報学研究所コンテンツ科学研究系教授)

プライバシーを保護したデータ利活用に向けて

宮地 充子 (日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻教授)

身体活動増進を介して子どもの事故を減らす学校環境デザイン

伊香賀俊治 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授)

子ども・保護者の視点に立つ事故予防の生活デザイン

神吉紀世子 (日本学術会議連携会員、京都市大学工学系研究科建築学専攻教授)

新たな傷害制御学の創造に向けて

西田 佳史 (日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授)

16:00-17:00 【総合討論】

Data to Design: データを成育環境デザインにつなげる現場共創型総合科学の創造

矢口 まゆ (町田市議会議員)

出口貴美子 (NPO 法人 Love & Safety おおむら代表)

第1部、第2部講演者

閉会挨拶

西田 佳史 (日本学術会議特任連携会員、国立大学法人東京工業大学教授)

日本学術会議が主催するシンポジウムを運営。こどもの傷害を減らすために必要な国のシステムを構築することを目的に、現状と課題を検討した。



日本学術会議主催 公開シンポジウム

事故による 子どもの傷害を予防する

— 子ども中心の新たな予防システムの構築へ —

2022 オンライン開催

7.23 ± 14:00
17:00

【開催趣旨】

事故による子どもの傷害は多発しており、同じ年齢層の子どもに同じ事故が繰り返し起きています。すなわち、現在、予防策と考えられているものは機能していません。本シンポジウムでは、主に14歳以下の非意図的な傷害の予防を目的に、今、子どもの傷害に関わっている組織の方々に、子どもの傷害についての現状・対応・課題を述べていただき、それらの実態に対して科学的にどのように取り組み、どうしたら子どもの傷害の発生数を減らすことができるか、どのようなシステムが必要かについて議論します。

第1部 14:00-14:50
傷害予防の現状と課題

第2部 15:00-15:50
データを収集・活用するための学術

第3部 16:00-17:00
【総合討論】 Data to Design
データを成育環境デザインにつなげる現場共創型総合科学の創造

主催：日本学術会議臨床医学委員会・心理学・教育委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会

【問い合わせ】 NPO 法人 Safe Kids Japan (e-mail: info@safekidsjapan.org)



要望書の提出（2022/9/12）

2022年9月5日に静岡県牧之原市の認定こども園において、3歳の園児が送迎バスの中に取り残され、熱中症で亡くなるという事故が発生。子どもの事故予防地方議員連盟との連名で、「テクノロジーを活用した通園バスにおける事故予防策と実態調査の実施について」と題する要望書を、小倉まさのぶ内閣府特命担当大臣（当時）に提出。要望は、その後の国の施策にほぼ反映された。



SAFE
KIDS
WORLDWIDE
JAPAN

令和4年9月12日

内閣府特命担当大臣 小倉 将信 様
文部科学大臣 永岡 桂子 様
厚生労働大臣 加藤 勝信 様

テクノロジーを活用した通園バスにおける事故予防策と実態調査の実施について
(要望)

NPO 法人 Safe Kids Japan
理事長 山中 龍宏 (小児科医)

子どもの事故予防地方議員連盟
会長 佐藤 篤 (東京都墨田区議会議員)

日ごろより子どもたちの事故による傷害予防活動にご尽力いただいていることに対し、感謝を申し上げます。私たち NPO 法人 Safe Kids Japan と子どもの事故予防地方議員連盟は、子どもの事故による傷害（けが）の予防を目的として、協働して活動しています。

【要望趣旨】

さて、すでにご承知のとおり、本年（令和4年）9月5日、静岡県牧之原市内の認定こども園において、3歳の園児が通園バスの中に取り残され、熱中症により死亡するという事故が発生しました。

令和3年7月に、福岡県中間市の保育園で通園バスの中に当時5歳の園児が取り残されて死亡した事故が発生し、それを受けて同年8月に国から「保育所、幼稚園、認定こども園及び特別支援学校幼稚園における安全管理の徹底について（事務連絡）」が発出され、本年9月6日にも重ねて「保育所、幼稚園、認定こども園及び特別支援学校幼稚園におけるバス送迎に当たっての安全管理の徹底について（再周知）」が発出されました。迅速なご対応に改めて御礼申し上げます。

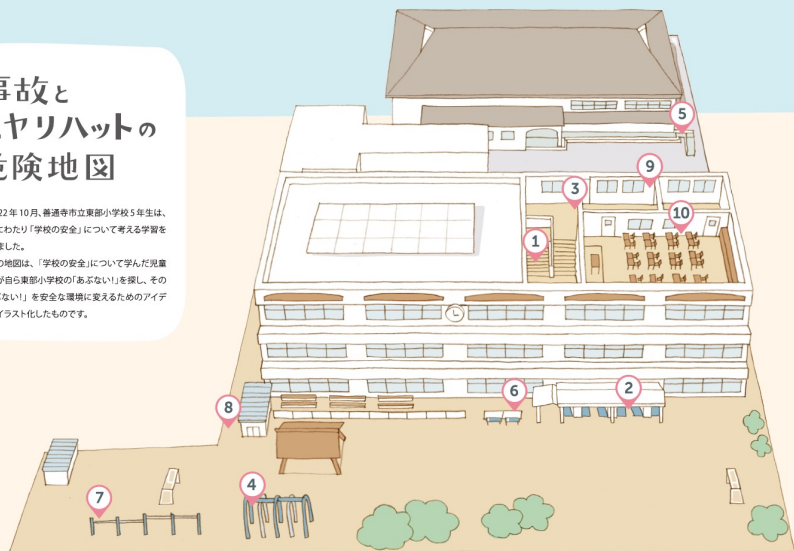
しかしながら、昨年に事務連絡を出していただいたにもかかわらず、今回同様の事故が発生したことを、私たちは真摯に受け止める必要があると考え、以下に要望を述べます。

小学生向け安全授業

香川県善通寺市内のすべての小学校5年生を対象に実施している安全授業。傷害予防の考え方を学んだ児童が、自身の学校の「あぶない！」を探して撮影、どうすれば大きなケガをしない環境にできるかを考え、発表する。2022年度は、市立東部小学校と南部小学校で安全授業を実施、児童が指摘した危険箇所（サッカーゴールのゴールポスト部分）に、早速カバーが設置された。

事故とヒヤリハットの危険地図

2022年10月、善通寺市立東部小学校5年生は、3回にわたり「学校の安全」について考える学習を行いました。
この地図は、「学校の安全」について学んだ児童たちが自ら東部小学校の「あぶない！」を探し、その「あぶない！」を安全な環境に変えるためのアイデアをイラスト化したものです。



企画制作：子ども安全ネット事務局、NPO法人SAFE KIDS JAPAN
監修：大野 美津子（国語科担任、児童発達支援センター担任、NPO法人SAFE KIDS JAPAN 理事）



事故とヒヤリハットの危険地図

みんなが見つけた「学校のあぶない！」と、その解決策

<p>1</p> <p>あぶない 手すりのほしっくに制服のそでが引っかかる。 アイデア 手すりのほしを曲げて前にくっつける。</p>	<p>2</p> <p>あぶない 段差があって危ない。 アイデア 標記をつけて段差をなくす。</p>
<p>3</p> <p>あぶない 自由な周りに人がぶつかって危ない。 アイデア 壁をつけて人が来るのを止めるようにする。</p>	<p>4</p> <p>あぶない のぼり棒から落ちてケガをする。 アイデア 下にやわらかいマットを敷く。</p>
<p>5</p> <p>あぶない 手すりが硬くてぶつかる危険。 アイデア 角は丸くする。手すりはスポンジのようにやわらかく、でも保護を受けられるものにする。</p>	<p>6</p> <p>あぶない 網がねがむき出しになっていて、さわる危険。 アイデア カバーをつけて網がねが見えなくなるようにする。</p>
<p>7</p> <p>あぶない 手がすべて滑ると壁を引っ張りすぎる。 アイデア 手をやわらかくしておく。</p>	<p>8</p> <p>あぶない 立っているとお食いがしららぶつかる。 アイデア 人が来たと思ったらブープーとブザーがなる。</p>
<p>9</p> <p>あぶない 手がとどくかどうかジャンプして上の部分でさわる人がいる。 アイデア ケガをしないようにカバーをつける。</p>	<p>10</p> <p>あぶない 机にぶつかる危険。 アイデア やわらかいクッションをつける。</p>

2022年10月撮影 / デザインイラスト：丸山 真由美 / このイラストは、善通寺市立東部小学校の児童が作成した。



小学校の安全授業が一枚の地図になりました

小学生向け安全授業

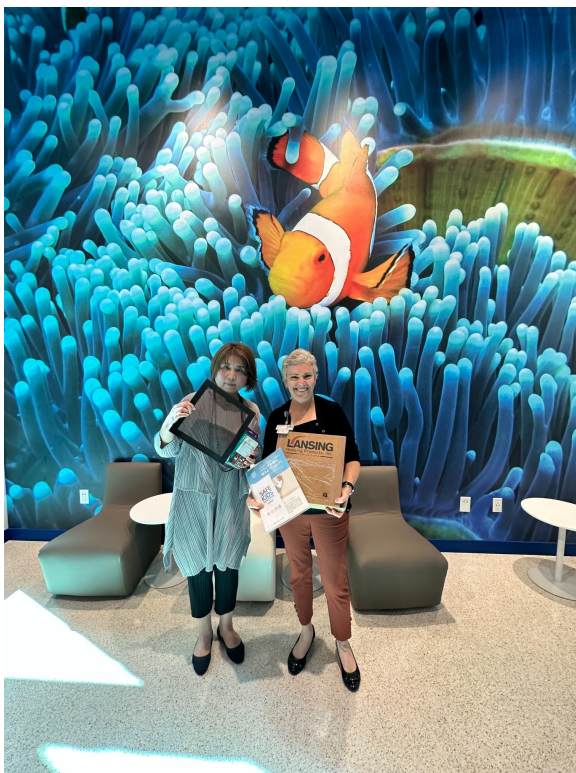


授業で使用している動画

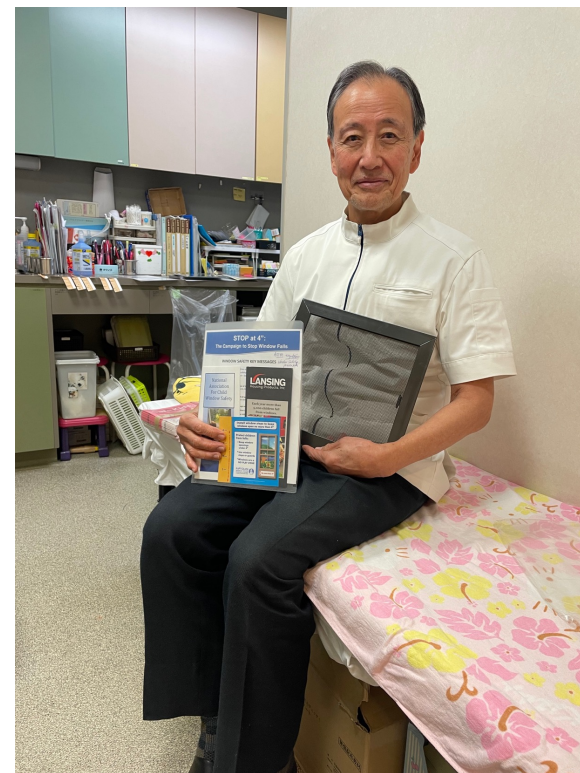


[「ABCで考えよう」](#)

Safe Kids Hawaiiとの連携



いわゆる「Evan's Law」策定に向けて中心的な役割を果たしたSafe Kids Hawaii。2011年の事故から12年が経つ今も、ワーキンググループが転落予防策の更なる展開を求めて活動している。



[The Tragic Death Of A 4-Year-Old Is Moving The Military Toward Safer Windows](#)

「こどものケガを減らすために みんなをつなぐプラットフォーム Safe Kids」 の構築・公開（2023/2/16）



Safe Kidsは、こどものケガを減らすために、一般のみなさんと、各専門機関や企業・行政をつなぐプラットフォームです。

東京都と協働し、新たなプラットフォームを構築、2023年2月に公開した。このプラットフォームに消費者の声を寄せてもらい、それを企業や行政に伝えて、こどもを取り巻く製品や環境を変えることでこどものケガを減らすことを目的としている。

本事業は、令和4年度東京都商品等安全対策協議会のテーマとなった。



[東京インフォメーション](#)（2023年3月13日）



[こどものケガを減らすためにみんなをつなぐプラットフォーム Safe Kids](#)

ネットワーク会議の開催（2023/3/11）

- 1 はじめに
山中 龍宏：小児科医、Safe Kids Japan理事長
- 2 活動紹介
発表①「香川県善通寺市立小学校での安全授業の取り組み」
発表②「磁石製品の危険性【疑似的検証】」
発表③「地方議員による子どもの事故予防」
発表④「幼小中におけるJASPE足育の普及活動～教師がすすめる子どもの傷害予防教育～」
- 3 グループディスカッション
全 員
- 4 全体共有
全 員
- 5 Safe Kids Award授賞式
受賞 松野 敬子さん
- 6 おわりに
西田 佳史：東京工業大学工学院教授、Safe Kids Japan理事



Yahoo!ニュース (個人)

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン ぷるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力 | Q

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング

新着記事 | オーサー一覧 | コメンテーター一覧

また起きた！「ベランダ等高所からの子どもの転落死」～今後、どう取り組むべきか

山中龍宏 | 小児科医/NPO法人 Safe Kids Japan 理事長
2022/11/9(土) 19:00



「ベランダの柵を考えるプロジェクト」報告書の表紙 筆者抜粋

2022年11月2日午後、千葉県内の48階建てマンションの25階から幼児が転落し、亡くなった。10月22日には東京都内の14階建て集合住宅から、やはり幼児が転落して亡くなっている。そして今日、大阪府内の4階建集合住宅の出窓から2歳児が転落したようだ、との報道があった。

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
ログイン ぷるさと納税でPayPayポイントもらえる

キーワードを入力 | Q

トップ 速報 ライブ 個人 オリジナル みんなの意見 ランキング

新着記事 | オーサー一覧 | コメンテーター一覧

「モグラたたき」と言われても～楽しく安全な豆まきのために～

山中龍宏 | 小児科医/NPO法人 Safe Kids Japan 理事長
1/30(月) 8:00



(写真:アフロ)

「最強寒波」が猛威を振るい、全国的に厳しい寒さが続いているが、季節は確実に移っている。もうすぐ立春だ。今年の立春は2月4日なので、節分はその前日、2月3日である。この日は保育・教育施設や各家庭で「豆まき」の行事が行われるだろう。子どもたちにとって楽しい行事である豆まきだが、乳幼児が豆をそのまま食べることは危険だ。2020年2月3日、保育施設で行われた節分の豆まきの豆で4歳児が窒息死した。保育の場でも、家庭でも、豆そのものを食べるのは6歳になってからにしてほしい。

以前から豆の危険性を指摘してきたし、内閣府等から出ているガイドラインでも危険性が指摘されているが、今回もまた、豆や大粒のぶどう、ミニトマト等の危険性について指摘したい。

山中理事長のYahoo!ニュース(個人)。2022年4月1日～2023年3月31日までの1年間に19本の記事を公開した。2022年12月には「[また起きた！『ベランダ等高所からの子どもの転落死』～今後、どう取り組むべきか](#)」が、2023年1月には「[『モグラたたき』と言われても～楽しく安全な豆まきのために～](#)」が、それぞれ月間MVA (Most Valuable Article) に選出された。

取材対応



朝日新聞デジタル > 記事

保護者にだけ責任？50年前のNYから学べること 転落事故防ぐには

🔒 有料記事
聞き手・中井なつみ 2022年11月19日 6時00分

📧 f 🐦 B! ...

🗨️ コメントプラス 仲村和代さんのコメント...



高層住宅の窓やベランダから子どもが転落する事故が相次いでいます。痛ましい事故を防ぐためにはどうしたらいいのでしょうか。子どもの事故予防に関する情報発信を続けるNPO法人「Safe Kids Japan (セーフキッズジャパン)」の理事で、ベランダの安全対策の研究に取り組む大野美喜さんに話を聞きました。

子どもの事故予防の研究などに取り組む、大野美喜子さん=本人提供

おおの・みきこ AI (人工知能)

首都圏 NEWS WEB

子どものベランダ転落事故 防ぐための対策は

11月04日 17時43分



2日、千葉市にある高層マンションの25階から男の子が転落して死亡した事故で、ベランダにはいすが置いてあったということで、警察は男の子がベランダから誤って転落したとみて詳しい状況を調べています。

2日午後2時すぎ、千葉市美浜区の高層マンションの25階の部屋からこの部屋に住む2歳の男の子が転落し、搬送先の病院で亡くなりました。

警察は転落したいきさつについて調べていますが、捜査関係者によりますと、当時、両親は外出中で家を出た際には男の子は1人で昼寝をしていたということです。また、この部屋のベランダにはキャンプ用のいすが置いてあったということです。警察は昼寝をしていた男の子が目をさましたあと、ベランダから誤って転落したとみて詳しい状況を調べています。



[保護者にだけ責任？50年前のNYから学べること 転落事故防ぐには](#) (朝日新聞デジタル 2022/11/19)



[子どものベランダ転落事故 防ぐための対策は](#) (2022/11/4 NHK NEWS WEB)

2023年4月1日～2023年3月31日までの間に、新聞・テレビ等から107件の取材依頼があった。